

	JMDN コード	新一般的名称	定義	クラス 分類	設置 該当
344	31293000	ガス差圧トランス デューサ	肺機能検査時によく用いられる医用の2チャンバ装置をいう。2つのチャンバのガス圧の差に比例した電気信号を発生させる。測定値は次の親機で表示・処理される。	II	
345	31339000	炭酸ガス分析装置	電気化学、赤外線吸収、ガスクロマトグラフィ又はマススペクトル法によって、換気、循環又は代謝状態を判定するため混合ガス中の二酸化炭素濃度を測定する装置をいう。	II	
346	35353000	長期モニタリング スパイロメータ	換気機能の評価のため、患者の1回換気量又は分時拍出量を持続的に測定するために用いる装置をいう。高1回換気量及び低1回換気量アラームを備えるものもある。参照:肺機能分析装置、〈詳細付〉;アラーム、〈詳細付〉	II	
347	35467000	一酸化炭素ガス分 析装置	代謝又は呼吸状態の評価の参考とするため、混合ガス中の一酸化炭素濃度を測定する装置をいう。電気化学分析、赤外線吸収、ガスクロマトグラフィ又はマススペクトル法等の技術が用いられている。	II	
348	36146000	肺運動負荷モニタ リングシステム	運動中の肺機能の他のパラメータとともに、酸素(O ₂)及び二酸化炭素(CO ₂)分析装置を用いて呼吸ガスを測定する負荷運動装置をいう。チューブに取り付け、患者とガス分析装置の間に接続するマスク、マウスピース、フードによって、患者が所定の種類のエルゴメータで運動を行いながら、患者の呼吸を測定及び計算する。参照:エルゴメータ、〈詳細付〉。通常、結果の表示、各種機能(ECG等)の監視、作業負荷の調節、印刷を行う。	II	
349	37235000	診断用気道陽圧 ユニット	睡眠時無呼吸症とその合併症の疑いがある患者の検査に用いるユニットをいう。記録されたデータを解析することによって、患者の状態を評価し、必要な治療を処方することができる。	II	
350	37268000	一酸化窒素ガス分 析装置	混合ガス中の一酸化窒素濃度を測定及び定量する装置をいう。特殊な呼吸器治療時に患者に供給されたNOの呼気・吸気中濃度の測定等に用いる。NOガスは非常に少量の場合にのみ有効であるため、このようなデータは重要である。	II	
351	40907000	X線CT診断装置キ セノンガス管理シ ステム	X線/CTシステムのコンポーネントの1つをいう。診断用X線で使用されるキセノンガス送出装置は、血流などの物理的又は生理学的パラメータのリアルタイム画像検査の際に、キセノンガスを(吸入又は注入により)送出するよう設計されている。本品は、X線をベースにしたアプリケーションで使用され、関連するチューブ、マスク、マウスピースを備えた単純なキャニスタをベースにした装置である場合やソフトウェア、インジェクタシステム、生理学的ゲーティング装置、ガスカニスタホルダー、ガスミキサ、配管セット、ガストラップ、フィルタ、アラーム、マスク、マウスピースなどを備えた電気又はソフトウェアで制御する術者用コンソールで構成されている場合がある。参照:アラーム、〈詳細付〉。	II	○
352	40908000	核医学診断用キセ ノンガス管理シス テム	ガンマカメラやSPECTなどの核医学画像装置のコンポーネントと見なされる装置をいう。患者へのキセノンガスの送出及び肺機能や血流量などの物理的又は生理学的パラメータに関するリアルタイム画像検査の際に使用した呼気中の放射性キセノンガスの収容には、キセノンガス再呼吸装置が使用される。本品は画像撮影中に大気中への放射性ガスの放出が抑制されるよう設計されている。	II	○
353	新規b051	マルチガスモニタ	患者の呼気及び/または吸気の酸素、二酸化炭素、亜酸化窒素、麻酔ガスの濃度、呼吸数等を監視するマルチガスモニタをいう。	II	
354	37948000	房水・フレアセルア ナライザ	房水中の前房フレア(蛋白濃度)と細胞数を測定する機器をいう。網膜の変化が肉眼で判別できる以前の前房フレアの微増加を検出するために用いる。	II	
355	11614000	他覚的聴力検査 装置	聴力検査において、感覚器又は感覚器の上行路のある点又は中枢神経系内の刺激(視覚、聴覚、体性感覚等)に応答して、脳又は脊髄から生じる局所電位の検出及び記録に用いる装置をいう。記録される電位の特性は、記録部位、刺激の様式、(誘発反応)、量及び意識又は麻酔レベルにより異なる。得られる波形を脳及びその感覚路の機能及び完全性の評価に用いることがある。	II	
356	14069000	トノスコープ	スクリーン上に振動を記録することにより音を視覚化するために用いる器具をいう。音による頭部又は脳の検査に用いる。	II	
357	34891000	前庭機能熱刺激 装置	刺激装置の1種で、外耳道内に気流又は水流として熱刺激を供給するものをいう。前庭機能刺激装置は、媒体の流速及び温度を調節するためポンプ、バルブ、ヒータ、レギュレータを内蔵する灌流システムからなる。半規管への刺激は、眼振計で測定される不随意的な眼の動きを発生させる。患者の平衡系を評価するための前庭機能の検査に用いる。参照:前庭刺激平衡機能検査ユニット	II	
358	35169000	電磁刺激装置	刺激装置の1種で、患者の熱知覚閾値未満のレベルで組織に電磁エネルギーを供給するものをいう。通常、短時間パルス高周波エネルギーを利用して標的組織の温度を1°C未満上昇させる。	II	

JMDN コード	新一般的名称	定義	クラス 分類	設置 該当
359	35723002 位置決定用神経探知刺激装置	神経と手術器具(メス等)との位置関係を監視するため神経を断続的に探知する装置をいう。神経刺激装置と神経の信号活動を記録する受信器から構成される。	II	
360	35723003 神経探知刺激装置	神経と手術器具(メス等)との位置関係を監視するため神経を断続的に探知する装置をいう。筋弛緩剤又は麻酔薬投与量の判定に用いられることがある。神経刺激装置と神経の信号活動を記録する受信器から構成される。	III	
361	37042000 局所麻酔用神経刺激装置	局所麻酔の注射前に身体の一部にある神経の一番適切なところを特定するのに用いる電池電源式の装置をいう。この領域を電流で刺激することによって、筋反射が活性化され、観察することができる。この作用は、麻酔薬の注射後、電流を増大させることによってコントロールすることができるため、筋反射を確認することができる。本品は、物理療法や診断目的にも用いられる。	II	
362	10551000 眼底カメラ	瞳孔を通じて瞳孔を通じて眼底(眼球内部または後極部)を撮影する機器をいう。	II	
363	16419000 眼撮影装置	眼球及び眼底の写真画像(蛍光造影法を行う場合には血管画像)の記録に用いる専用カメラをいう。例示:対物レンズから照明を照らし、眼の位置と合わせ網膜の写真を(1秒間隔で)撮影する。眼底の病理を記録し、診断データを提供するために用いる。	II	
364	10960000 コルポスコープ	女性器(膣、子宮頸等)の診察に用いる特殊な顕微鏡をいう。	I	
365	37084000 内視鏡用テレスコープ	機能を果たすためにいくつかの構成部品からなる内視鏡システムのコンポーネントのひとつ。リレーレンズ、光ファイバ、又は電荷結合素子(CCD)チップの画像伝送システムを備えた硬性鏡もしくは軟性鏡から構成される。通常、光源からの光の供給のためファイバケーブルと接続する。本品はシースに挿入されることもある。他の部品との組み立てについては、内視鏡構成部品・シースを参照。自然開口部又は人工開口部を経て体腔・臓器を検査するのに用いる。	II	
366	35020000 軟性十二指腸鏡	十二指腸(近位十二指腸までの上部消化管)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。粘膜、胆嚢、膵臓、胃等の器官を検査する。画像伝送システムには、光ファイバ管束が用いられている。	II	
367	35087000 軟性胃十二指腸鏡	胃から十二指腸の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は体腔に合わせて形状が変化する軟性内視鏡である。画像伝送システムには光ファイバ管束が用いられている。	II	
368	35088000 軟性胃内視鏡	胃の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。口又は胃壁の人工開口部から挿入する。挿入部は軟性であり、画像伝送システムには光ファイバ管束が用いられている。	II	
369	36631000 軟性食道鏡	食道の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は体腔に合わせて形状が変化する。口腔から挿入する。画像伝送システムは、光ファイバ管束である。	II	
370	15057000 軟性S字結腸鏡	大腸から直腸の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は体形状に順応するために軟性で、画像伝送は、光ファイバ管束を備えたファイバースコープである。	II	
371	34966000 軟性大腸鏡	大腸(結腸)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、肛門から挿入する。画像伝送システムには、光ファイバ管束が用いられている。	II	
372	32253000 軟性膵管鏡	膵臓の観察及び診断に用いる内視鏡をいう。画像伝送システムは、光ファイバ管束であり、挿入部は軟性である。通常、十二指腸鏡のワーキングチャンネルに導入し、ファーター乳頭から挿入する。	II	
373	34010000 軟性血管鏡	静脈又は動脈の管腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。経皮的に挿入する。本品はファイバースコープであり、光ファイバ管束を経て画像が供給される。	IV	
374	34855000 軟性動脈鏡	冠動脈、末梢血管、心臓内の構造の観察、診断、一部の治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、観察する血管の内部に挿入する。画像伝送システムには光ファイバ管束が用いられている。	IV	
375	34939000 軟性胆道鏡	胆道胆管の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品の挿入部は軟性であり、腹部の切開部から挿入するが、軟性十二指腸鏡から挿入することもできる。本品は光ファイバ管束を利用して画像伝送を行うファイバースコープである。	II	
376	35204000 軟性鼻咽頭鏡	鼻咽頭(鼻の後方にある喉の上部)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は体腔に合わせて形状が変化する軟性内視鏡である。画像伝送システムは、光ファイバ管束である。	II	
377	35461000 軟性気管支鏡	気管支及び肺の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性である。本品は画像伝送光ファイバ管束を備えたファイバースコープである。	II	

	JMDN コード	新一般的名称	定義	クラス 分類	設置 該当
378	35502000	軟性腎盂鏡	腎臓の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。経皮的に腎盂に挿入する。本品は体腔に合わせて形状が変化する軟性内視鏡である。画像伝送システムは、光ファイバ管束である。	Ⅱ	
379	35980000	軟性膀胱鏡	尿道(上部尿路)からの膀胱の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であるため体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムとして光ファイバ管束を備えるファイバ스코ープである。	Ⅱ	
380	36298000	軟性小腸鏡	小腸の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。小腸の手術時に用いる。プッシュ型(直接視下でガイドによって挿入する)又はゾンデ型(蠕動運動によって本品を腸内に挿入する膨張式バルーンを備える)がある。画像伝送システムには光ファイバ管束が用いられている。	Ⅱ	
381	36624000	軟性クルドスコープ	後腔円蓋からの子宮、卵巣、卵管、骨盤、骨盤腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は軟性内視鏡であり、画像伝送システムは光ファイバ管束である。	Ⅱ	
382	36632000	軟性膀胱尿道鏡	膀胱及び男性の尿道(前立腺部を含む)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性である。画像伝送システムは、光ファイバ管束を備えたファイバ스코ープである。	Ⅱ	
383	36639000	軟性胸腔鏡	胸腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。肋間腔から体腔内に挿入する。本品は軟性内視鏡であり、画像伝送システムは、光ファイバ管束である。	Ⅱ	
384	36640000	軟性尿管鏡	尿管口の外部からの尿管(腎臓から膀胱への尿の通り道)及び腎盂の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、光ファイバ管束を備えたファイバ스코ープである。	Ⅱ	
385	36645000	軟性喉頭鏡	喉頭の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムとして光ファイバ管束を備えるファイバ스코ープである。	Ⅱ	
386	36706000	軟性挿管用喉頭鏡	麻酔又は救急医療等において、気道の確保のため気管(人の気道)への特殊な気管内チューブの挿入と配置を支援するために用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。	Ⅱ	
387	36709000	軟性咽頭鏡	咽頭の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、光ファイバ管束を備えたファイバ스코ープである。	Ⅱ	
388	37111000	軟性尿管腎盂鏡	尿管口の外部からの尿管及び腎盂の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、光ファイバ管束である。	Ⅱ	
389	37152000	軟性子宮鏡	子宮腔(子宮)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。膈又は子宮頸から挿入する。本品は体腔又は器具の管腔に合わせて形状が変化する軟性内視鏡である。画像伝送システムは、光ファイバ管束である。子宮鏡(uteroscope)ともいう。	Ⅱ	
390	37181000	軟性神経内視鏡	中枢神経系の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。頭蓋に事前に開けた孔から挿入する。本品の挿入部は体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、光ファイバ管束である。	Ⅳ	
391	新規fb035	軟性脊髄鏡	脊髄の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から挿入する。本品は挿入部が軟性で、画像伝送システムとして光ファイバ管束を備える。	Ⅳ	
392	新規fb038	軟性腹腔鏡	腹腔や後腹膜腔等の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。腹壁の人工開口部(通常、臍の直下)に挿入する。本品は挿入部が軟性で、画像伝送システムは、光ファイバ管束である。	Ⅱ	
393	新規fb039	軟性口腔鏡	口腔内部を観察するために用いられる。挿入部は軟性で、イメージファイバー等の光学系を備える。	Ⅱ	
394	新規fb041	軟性腰椎鏡	腰の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から挿入する。本品は挿入部が軟性で、画像伝送システムとして光ファイバ管束を備える。	Ⅳ	
395	新規fb043	軟性上顎洞鏡	主として上顎洞の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は軟性内視鏡である。	Ⅱ	
396	新規fb045	軟性涙道鏡	涙道内腔の観察、診断、治療を行う。挿入部は軟性で光ファイバ管束を備える。	Ⅱ	
397	新規fb051	軟性乳管鏡	乳管内の観察、診断、治療に用いる。挿入部は軟性で光ファイバ管束を備える。	Ⅱ	

JMDN コード	新一般的名称	定義	クラス 分類	設置 該当
398	新規fb054 軟性形成外科用内視鏡	形成外科領域で、皮下組織吸引や再建術等に用いられる。挿入部は軟性で光ファイバ管束を備える。	II	
399	新規fb057 軟性脊椎鏡	脊椎の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から挿入する。挿入部が軟性で、画像伝送システムとして光ファイバ管束を備える。	IV	
400	新規fb060 軟性耳内視鏡	耳科領域、主として中耳内の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は軟性内視鏡である。	II	
401	新規fb004 軟性卵管鏡	卵管の観察、診断、治療や卵子の採取、受精卵の注入等に用いる内視鏡をいう。経腹腔又は膈、子宮頸から挿入する。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、光ファイバ管束である。	II	
402	新規fb009 軟性関節鏡	関節(例えば膝関節、肩関節等)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から関節に挿入する。通常、挿入部は軟性で、光ファイバ管束を備える。	II	
403	新規fb011 軟性縦隔鏡	縦隔(胸骨の後ろで、2つの胸膜嚢の間にある胸腔内の空隙)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、光ファイバ画像伝送システムを備える。	II	
404	新規fb013 軟性尿道鏡	尿道の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、光ファイバ管束を備えたファイバスコープである。	II	
405	新規fb017 軟性鼻腔鏡	外鼻孔からの鼻腔内の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は光ファイバ管束を備える軟性内視鏡である。	II	
406	新規fb019 軟性副鼻腔鏡	副鼻腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は光ファイバ画像システムを備える軟性内視鏡である。	II	
407	17662000 ビデオ軟性気管支鏡	気管支及び肺の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であるため体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムには、電荷結合素子(CCD)が用いられている。	II	
408	17663000 ビデオ軟性胃内視鏡	胃の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。口腔又は胃壁の人工開口部から挿入する。画像伝送システムには電荷結合素子(CCD)が用いられている。通常、挿入部は軟性である。	II	
409	17664000 ビデオ軟性S字結腸鏡	大腸から直腸の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は体形状に順応するために軟性で、画像伝送は、電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
410	32019000 ビデオ軟性膀胱尿道鏡	膀胱及び男性の尿道(前立腺部を含む)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性である。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
411	35462000 ビデオ軟性喉頭鏡	喉頭の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
412	35616000 内視鏡ビデオ画像システム	ビデオ内視鏡から送信されるビデオ画像をディスプレイモニタに表示するシステムをいう。これによって術者及び補助員が処置部を観察できる。通常、ビデオ内視鏡、内視鏡カメラ、カメラコントロールユニット、光源と光源ケーブル、ビデオレコーダ、画像処理装置(カラー補正装置を備えることがある)、視覚的表示装置(医療機器用に製作されたテレビセット等)から構成される。	II	
413	36112000 ビデオ軟性十二指腸鏡	十二指腸(近位十二指腸までの上部消化管)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。粘膜、胆嚢、膵臓、胃等の器官を検査する。画像伝送システムには、電荷結合素子(CCD)が用いられている。	II	
414	36117000 ビデオ軟性大腸鏡	大腸(結腸)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、肛門から挿入する。画像伝送システムには、電荷結合素子(CCD)が用いられている。	II	
415	36283000 ビデオ軟性腹腔鏡	腹腔や後腹膜腔等の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。腹壁の人工開口部(通常、臍の直下)に挿入する。電荷結合素子(CCD)を画像伝送システムとして用いる	II	
416	36299000 ビデオ軟性小腸鏡	小腸の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。小腸の手術時に用いる。プッシュ型(直接視下でガイドによって挿入する)又はゾンデ型(蠕動運動によって本品を腸内に挿入する膨張式バルーンを備える)がある。画像伝送システムには電荷結合素子(CCD)が用いられている。	II	
417	36626000 ビデオ軟性胆道鏡	胆道胆管の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品の挿入部は軟性であり、腹部の切開部から挿入するが、軟性十二指腸鏡から挿入することもできる。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)チップを利用する。	II	

JMDN コード	新一般的名称	定義	クラス 分類	設置 該当	
418	38663000	ビデオ軟性腎盂鏡	腎臓の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。経皮的に腎盂に挿入する。本品は体腔に合わせて形状が変化する軟性内視鏡である。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオである。	II	
419	38666000	ビデオ軟性食道鏡	食道の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。口腔から挿入する。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオである。	II	
420	38689000	ビデオ軟性尿管鏡	尿管口の外部からの尿管(腎臓から膀胱への尿の通り道)及び腎盂の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
421	38691000	ビデオ軟性咽頭鏡	咽頭の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)を備えたビデオスコープである。	II	
422	38703000	ビデオ軟性尿管腎盂鏡	尿管口の外部からの尿管及び腎盂の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
423	38805000	ビデオ軟性胃十二指腸鏡	胃から十二指腸の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は体腔に合わせて形状が変化する軟性内視鏡である。画像伝送システムには、電荷結合素子(CCD)が用いられている。	II	
424	新規fb036	ビデオ軟性脊髓鏡	脊髓の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から挿入する。本品は挿入部が軟性で、画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備える。	IV	
425	新規fb037	ビデオ軟性挿管用喉頭鏡	麻酔又は救急医療等において、気道の確保のため気管(人の気道)への特殊な気管内チューブの挿入と配置を支援するために用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
426	新規fb040	ビデオ軟性口腔鏡	口腔内部を観察するために用いられる。挿入部は軟性で電荷結合素子(CCD)チップを備える。	II	
427	新規fb042	ビデオ軟性腰椎鏡	腰の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から挿入する。本品は挿入部が軟性で、画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備える。	IV	
428	新規fb044	ビデオ軟性上顎洞鏡	主として上顎洞の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は軟性のビデオスコープである。	II	
429	新規fb046	ビデオ軟性涙道鏡	涙道内腔の観察、診断、治療を行う。挿入部は軟性で電荷結合素子(CCD)チップを備える。	II	
430	新規fb052	ビデオ軟性乳管鏡	乳管内の観察、診断、治療に用いる。挿入部は軟性で電荷結合素子(CCD)チップを備える。	II	
431	新規fb055	ビデオ軟性形成外科用内視鏡	形成外科領域で、皮下組織吸引や再建術等に用いられる。挿入部は軟性で電荷結合素子(CCD)チップを備える。	II	
432	新規fb058	ビデオ軟性脊椎鏡	脊椎の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から挿入する。挿入部が軟性で、画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備える。	IV	
433	新規fb061	ビデオ軟性耳内視鏡	耳科領域、主として中耳内の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は軟性のビデオスコープである。	II	
434	新規fb005	ビデオ軟性卵管鏡	卵管の観察、診断、治療や卵子の採取、受精卵の注入等に用いる内視鏡をいう。経腹腔又は膣、子宮頸から挿入する。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
435	新規fb010	ビデオ軟性関節鏡	関節(例えば膝関節、肩関節等)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から関節に挿入する。通常、挿入部は軟性で、電荷結合素子(CCD)チップを備える。	II	
436	新規fb012	ビデオ軟性縦隔鏡	縦隔(胸骨の後ろで、2つの胸膜嚢の間にある胸腔内の空隙)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、電荷結合素子(CCD)チップを備える。	II	
437	新規fb014	ビデオ軟性尿道鏡	尿道の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	

JMDN コード	新一般の名称	定義	クラス 分類	設置 該当
438	新規fb016 ビデオ軟性鼻咽鏡	鼻腔から喉頭の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
439	新規fb018 ビデオ軟性鼻腔鏡	外鼻孔からの鼻腔内の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
440	新規fb020 ビデオ軟性副鼻腔鏡	副鼻腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
441	新規fb021 ビデオ軟性胸腔鏡	胸腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。肋間腔から体腔内に挿入する。本品は軟性内視鏡であり、画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
442	新規fb022 ビデオ軟性血管鏡	静脈又は動脈の管腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。経皮的に挿入する。本品はビデオスコープであり、電荷結合素子(CCD)チップから画像が供給される。	IV	
443	新規fb023 ビデオ軟性子宮鏡	子宮腔(子宮)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。膣又は子宮頸から挿入する。本品は体腔又は器具の管腔に合わせて形状が変化する軟性内視鏡である。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)チップである。子宮鏡(uteroscope)ともいう。	II	
444	新規fb024 ビデオ軟性神経内視鏡	中枢神経系の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。頭蓋に事前に開けた孔から挿入する。本品の挿入部は体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	IV	
445	新規fb025 ビデオ軟性膵管鏡	膵臓の観察及び診断に用いる内視鏡をいう。画像伝送システムは、電荷結合素子(CCD)チップであり、挿入部は軟性である。通常、十二指腸鏡のワーキングチャンネルに導入し、ファーター乳頭から挿入する。	II	
446	新規fb026 ビデオ軟性動脈鏡	冠動脈、末梢血管、心臓内の構造の観察、診断、一部の治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であり、観察する血管の内部に挿入する。画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	IV	
447	新規fb027 ビデオ軟性鼻咽頭鏡	鼻咽頭(鼻の後方にある喉の上部)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は体腔に合わせて形状が変化する軟性内視鏡である。画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
448	新規fb028 ビデオ軟性膀胱鏡	尿道(上部尿路)からの膀胱の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は軟性であるため体腔に合わせて形状が変化する。画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
449	新規fb029 ビデオ軟性クルドスコープ	後陰円蓋からの子宮、卵巣、卵管、骨盤、骨盤腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は軟性内視鏡であり、画像伝送システムとして電荷結合素子(CCD)チップを備えたビデオスコープである。	II	
450	新規Z112 超音波軟性腹腔鏡	腹腔や後腹膜腔等の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。腹壁の人工開口部(通常、臍の直下)に挿入する。本品は挿入部が体腔又は器具の管腔に抵抗する軟性内視鏡である。画像伝送システムは、リレーレンズ光学系である。画像伝送システムに光ファイバ管束を備え、先端部が湾曲するものもある。	II	
451	15290000 硬性腎盂鏡	腎臓、腎盂、大腎杯、小腎杯の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。経皮的に腎盂に挿入する。挿入部は硬性であり、体腔又は器具の管腔に抵抗する。画像伝送システムは、リレーレンズ光学系である。画像伝送システムに光ファイバ管束を備えるものもある。	II	
452	17145000 硬性膀胱鏡	尿道(または上部尿路)からの膀胱の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は硬性である。画像伝送システムはリレーレンズ光学系システムである。	II	
453	32083000 腎盂鏡検査キット	バックになった用具一式で、腎盂鏡処置時に必要な装置、器具、その他の備品などを含むものをいう。同処置に必要な内視鏡装置を含むものもある。本品は、一部の備品を補充する必要がある場合でも、再使用可能とみなされる。	II	
454	35301000 硬性レゼクトスコープ	前立腺肥大の観察、診断、治療及び特に切除に用いる内視鏡をいう。通常、硬性の外筒、広角の光学視管、ワーキングエレメント、電気手術用ワイヤループ電極から構成される。参照:内視鏡構成、<詳細付>	II	
455	35423000 硬性尿道鏡	尿道の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は硬性であり、体腔に抵抗する。リレーレンズ光学系画像伝送システムを備える。	II	
456	36652000 硬性膀胱尿道鏡	膀胱及び男性の尿道(前立腺部を含む)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は硬性である。	II	
457	36654000 硬性尿管鏡	外尿道口からの尿管(腎臓から膀胱への尿の通り道)及び腎盂の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は硬性であり、体腔に抵抗する。リレーレンズ光学系画像伝送システムを備える。画像伝送システムに光ファイバ管束を備えるものもある。	II	

JMDN コード	新一般の名称	定義	クラス 分類	設置 該当	
458	37112000	硬性尿管腎盂鏡	外尿道口からの尿管及び腎盂の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は硬性であり、体腔に抵抗する。リレーレンズオプティクス画像伝送システムを備える。画像伝送システムに光ファイバ管束を備えるものもある。	Ⅱ	
459	10156002	硬性肛門鏡	肛門管及び下部直腸の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は硬性内視鏡であり、画像伝送システムとしてリレーレンズオプティクスを備える。	Ⅱ	
460	11858000	硬性胃内視鏡	胃の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。口腔又は胃壁の人工開口部から挿入する。本品は硬性内視鏡である。画像伝送システムは、リレーオプティックレンズシステムである。	Ⅱ	
461	12291000	硬性腹腔鏡	腹腔や後腹膜腔等の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。腹壁の人工開口部(通常、臍の直下)に挿入する。本品は挿入部が体腔又は器具の管腔に抵抗する硬性内視鏡である。画像伝送システムは、リレーレンズオプティクスである。画像伝送システムに光ファイバ管束を備え、先端部が湾曲するものもある。	Ⅱ	
462	15058000	硬性S字結腸鏡	大腸から直腸の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は硬性であり、体腔に抵抗する。画像伝送システムは、リレーレンズオプティクスである。	Ⅱ	
463	15074000	硬性気管支鏡	気管支及び肺の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は硬性であり、画像伝送システムはリレーレンズオプティクスである。	Ⅱ	
464	15076000	硬性喉頭鏡	喉頭の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は硬性内視鏡であり、画像伝送システムとしてリレーレンズオプティクスを備える。	Ⅱ	
465	15787000	肛門括約筋鏡	肛門括約筋の検査に用いる内視鏡をいう。	Ⅱ	
466	32043000	腹腔鏡キット	パックになった用具一式で、腹腔鏡処置時に必要な装置、器具、その他の備品などを含むものをいう。同処置に必要な内視鏡装置を含むものもある。本品は、一部の備品を補充する必要がある場合でも、再使用可能とみなされる。	Ⅱ	
467	32631000	経腔的硬性羊水鏡	妊婦の子宮頸部を経て胎児の直接観察、診断、治療ならびに羊水の色調及び量の観察に用いる内視鏡をいう。	Ⅱ	
468	34837000	経腹的硬性羊水鏡	羊膜の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。妊婦の腹壁の人工開口部から羊膜腔に挿入する。	Ⅱ	
469	34856000	硬性関節鏡	関節(例えば膝関節、肩関節等)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から関節に挿入する。通常、挿入部は硬性である。	Ⅱ	
470	34979000	硬性クルドスコープ	後腔円蓋からの子宮、卵巣、卵管、骨盤、骨盤腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は硬性内視鏡であり、画像伝送システムはリレーレンズオプティクスである。	Ⅱ	
471	35011000	硬性直達鏡	喉頭の観察及び診断に用いる内視鏡をいう。本品は硬性内視鏡であり、リレーレンズオプティクスを内蔵する。	Ⅱ	
472	35187000	硬性縦隔鏡	縦隔(胸骨の後ろで、2つの胸膜嚢の間にある胸腔内の空隙)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。挿入部は硬性であり、リレーレンズオプティクス画像伝送システムを備える。画像伝送システムに光ファイバ管束を備え、先端部が湾曲するものもある。	Ⅱ	
473	35200000	硬性脊髓鏡	脊髓の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。人工開口部から挿入する。本品は挿入部が体腔に抵抗する硬性内視鏡である。画像伝送システムとしてリレーレンズオプティクスを備える。画像伝送システムに光ファイバ管束を備えるものもある。	Ⅳ	
474	35205000	硬性鼻咽頭鏡	鼻咽頭(鼻の後方にある喉の上部)の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は挿入部が体腔又は器具の管腔に抵抗する硬性内視鏡である。リレーレンズオプティクス画像伝送システムを備える。	Ⅱ	
475	35233000	硬性骨盤鏡	骨盤の観察及び診断に用いる内視鏡をいう。人工開口部から経皮的に挿入する。本品はリレーレンズオプティクスを備える硬性内視鏡である。	Ⅱ	
476	35255000	硬性直腸鏡	直腸及び肛門の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品は硬性内視鏡であり、先端にリレーレンズオプティクス及び照明器を備えた空中鏡を内蔵する。	Ⅱ	
477	35316000	硬性鼻腔鏡	外鼻孔からの鼻腔内の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。本品はリレーレンズオプティクスを備える硬性内視鏡である。	Ⅱ	
478	35398000	硬性胸腔鏡	胸腔の観察、診断、治療に用いる内視鏡をいう。肋間腔から体腔内に挿入する。本品はリレーレンズオプティクス画像システムを備える硬性内視鏡である。画像システムに光ファイバ管束を備え先端部が湾曲するものもある。	Ⅱ	